

あ と が き

プログラム取組実施副責任者
複合領域科学専攻 教授 小川 温子

2年間とはいうものの、正味1年半未満の期間で、やや過密に行われた新規事業の「魅力ある大学院教育」イニシアティブが、今年度をもってひとまず終了する。平成17年度からの履修生12名の約半数にあたる5名が、イニシアティブの全プログラムを今年度で修了し、修了証を手にする予定である。すでに自らの研究の中で生命情報学を取り入れている学生も、まだ今後の展開を待つ状態の学生もいるが、いずれも本来の専門分野に加えて、本イニシアティブを通して得た知識、理論および技術をきっかけとして、今後研究を続ける中でそれぞれの形で生かし、さまざまなキャリアパスへと繋げていくことが期待される。

振り返ると、当初の計画どおり理工農系の本イニシアティブが遂行できたのは、プログラム担当教員、および関連の授業を担当する教員の協力のみならず、大学を挙げて応援し、また折々に貴重な助言をくださった郷通子学長、柴田文明国際・研究機構担当理事をはじめとする執行部の方々、事務的側面を支えていただいた柴田正造氏ら本学事務部の方々、あらゆる業務に献身的に尽くしていただいたイニシアティブ事務局の方々など、学内の関係者のご協力のおかげである。プログラム発足時には、生命情報学を専門とする教員が郷学長ただ1人という状況からスタートし、平成18年度より瀬々助教授の参画を得るまで、実質的な専門教育を行うために、学外の先生方にも多大なご協力をいただいた。講義、講演会、セミナーなどご講演をいただいた方々は、延べ20名にのぼる。また、インターンシップの実施には、産業技術総合研究所、国立遺伝学研究所、およびタカラバイオ株式会社に、最大級のご協力を賜った。この場をお借りして、本プログラムにご協力をいただいた多くの方々に、心からお礼の言葉を申し上げたい。

本事業は来る平成19年度からは、全学的な女性リーダー育成事業の一環として継続され、大学院教育プログラムとして本学に定着する予定である。本プログラムの趣旨が生かされ、生命情報学を活用して独創的な研究プランを立案できる女性研究者の育成が、今後ますます充実されることを願っている。

平成19年 3月